

## 道路事業の再評価概要書

番号

4

事業主体

栃木県

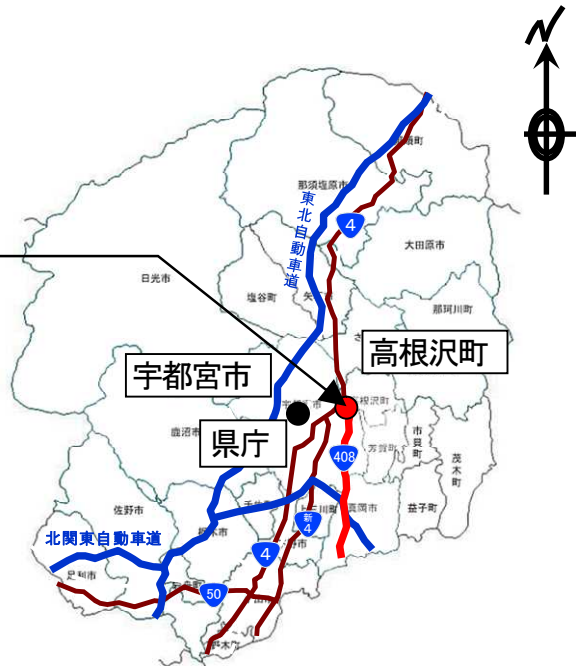
( ) は、当初計画時

事業名	快適な道づくり事業		事業所管課	県土整備部 道路整備課	
路線・河川名	一般国道 408号		事業箇所名	宇都宮市、高根沢町 宇都宮高根沢バイパス	
事業区間	宇都宮市野高谷町～高根沢町宝積寺		事業延長	6,600m	
H21年度事業化		H22年度用地着手		H24年度工事着手	
事業期間	(H28) H21年度～H32年度	事業 進捗 状況	基準年次：【平成25年度末時点】		
[うち用地補償費] 全体事業費	[36.2 (40.0) 億円] 112.1 (95.0) 億円		[うち用地補償費] 既投資事業費	[19.6 億円] 27.2 億円	進捗率 [54%] 24%
事業概要					
<p>一般国道408号宇都宮高根沢バイパスは、「新とちぎ元気プラン」においてスカイコリドールに位置付けられており、真岡宇都宮バイパス等とともに常磐自動車道谷和原ICと東北自動車道矢板ICを結ぶ延長約100kmの地域高規格道路「常総・宇都宮東部連絡道路」の一部を構成する広域幹線道路である。</p> <p>現道の沿線には清原工業団地をはじめとする工業団地群が集積することから、大型車交通量も多く、本県の産業活動を支える重要な路線である。</p> <p>しかし、現道は2車線の狭く曲がりくねった道路であることから、各所において渋滞が発生しており、また、交通事故も多発している状況である。</p> <p>このため、広域的な道路ネットワークを構築し、交通の円滑化を図るため、4車線のバイパス整備を行うものである。なお、事業効果の早期発現のため、当面は暫定的に2車線での整備を行い、交通量の推移を見ながら4車線化を図ることとする。</p>					
事業を巡る社会経済情勢等の変化					
特になし					
事業の投資効果					
<b>1 費用対効果分析結果</b>		【総便益 (B)】		【総費用 (C)】	
(1) 事業全体 B/C= 1.9		190.8 億円		102.8 億円	
(2) 残事業 B/C= 2.5		190.8 億円		76.7 億円	
<b>2 事業の整備効果等</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・渋滞緩和による交通の円滑化</li> <li>・現道交通のバイパスへの転換による交通事故の減少</li> <li>・北関東自動車道真岡ICや東北自動車道矢板ICへのアクセス強化による産業活動の支援</li> </ul>					
事業の進捗状況等					
<b>1 事業の進捗状況</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1期工区 (3.6km) は、用地取得及び工事を推進中</li> <li>・2期工区 (1.7km) は、用地取得を推進しており、平成25年度に工事に着手</li> </ul>					
<b>2 今後の事業進捗の見込み</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1期工区 (3.6km) は、平成28年度に暫定2車線での供用を図る。</li> <li>・2期工区 (1.7km) は、平成30年度に暫定2車線での供用を図る。</li> <li>・3期工区 (1.3km) は、平成32年度に暫定2車線での供用を図る。(全線供用)</li> </ul>					
コスト縮減等					
<b>1 コスト縮減方策</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路構造を高盛土形式から地表式に変更し、コストを縮減</li> <li>・再生骨材、再生アスファルト合材を活用し、コストを縮減</li> </ul>					
<b>2 代替案立案等の可能性</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・50%超の用地を取得しており、工事にも着手済みであることから、代替案立案は困難</li> </ul>					
事業の対応方針 (案)		現計画で事業を継続する。			

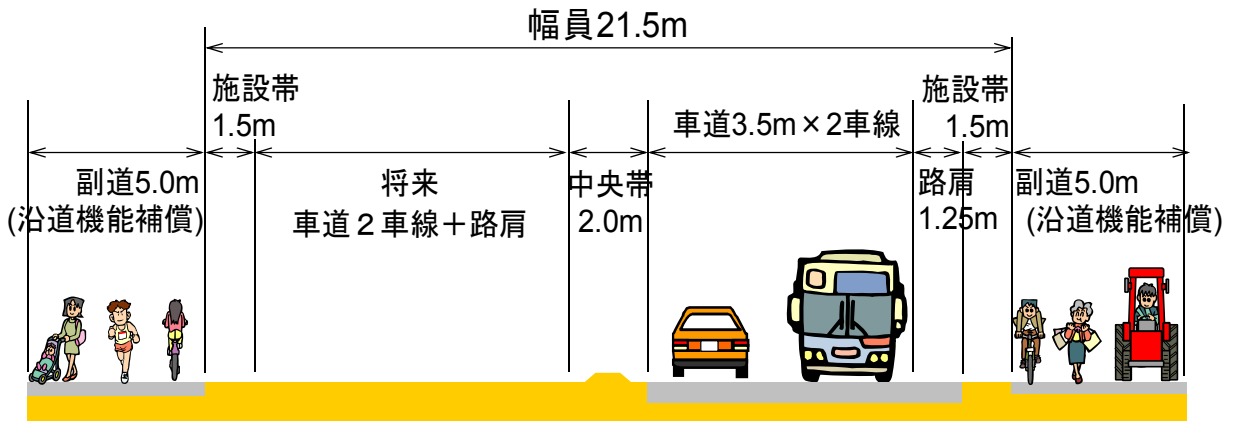
# 事業箇所（位置図・概要図）

## 位置図

一般国道408号 宇都宮高根沢バイパス



## 標準横断図



## 概要図

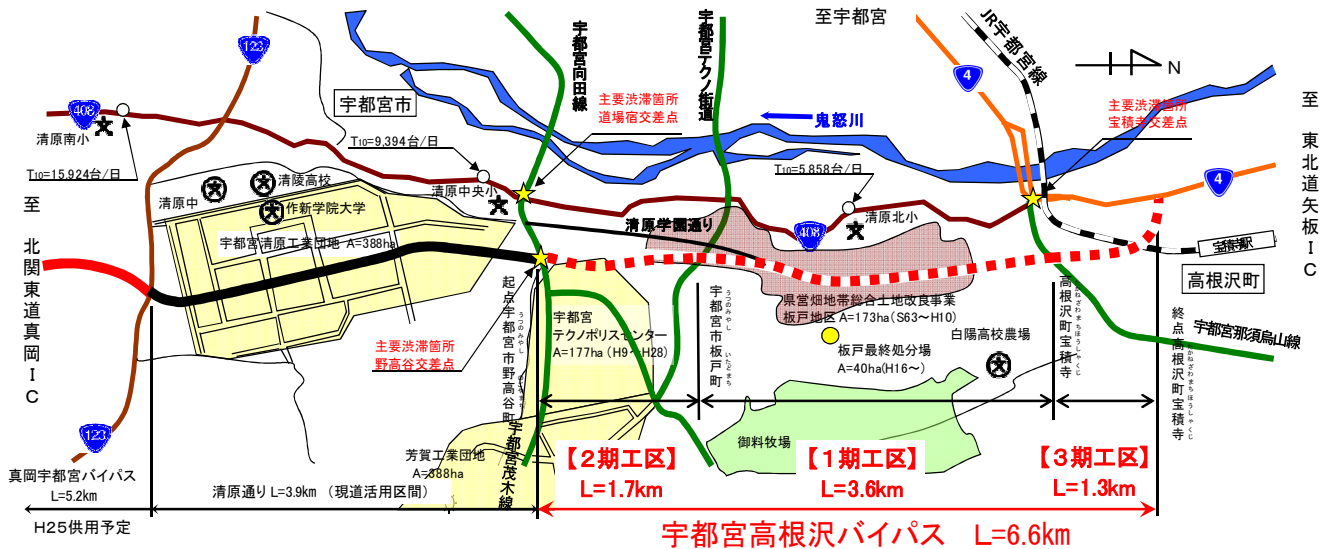




写真 1 : 現道の状況 (道場宿交差点 : 南進)



写真 2 : 現道の状況 (1期工区の並行区間)



写真 3 : 周辺道路の状況 (清原学園通り)